

Feature Topic

February 2016

早期緩和ケアの正体

Feature Article

西 智弘 (川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター 腫瘍内科／緩和ケア内科)

武見綾子 (同看護部 がんサポートチーム)

Temel論文のインパクトと現在

金 容亮 (聖隷浜松病院 化学療法科)

近藤まゆみ (北里大学病院 集学的がん診療センターがん相談支援室 緩和ケア室)

新城拓也 (しんじょう医院)

松本禎久 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)

別の視点から

小川朝生 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)

桜井なおみ (特定非営利活動法人 HOPEプロジェクト)

横山太郎 (横浜市立市民病院 緩和ケア内科)

岩根裕紀 (京都桂病院 薬剤科)

日下部明彦 (横浜市立大学医学部 総合診療医学)

「緩和ケア」を知る・考えるためのブックガイド

2010年に発表されたTemelらによる「転移性非小細胞肺癌患者における早期緩和ケア」論文は、緩和医療の世界のみならずがん医療全体に大きなインパクトを与え、それ以来、「早期からの緩和ケア」は臨床上の大きなテーマのひとつとなっている。しかし、発表から6年経った現在、その実践には依然として臨床的なハードルがあり、更には、「早期からの緩和ケア」の認識自体にもなにかズレのようなものが生じていないだろうか。そこで、本特集では、「早期からの緩和ケアとはなにか?」という最もシンプルな疑問を解き明かしたい。